



インフルエンザワクチン

B-13

どんな病気ですか？

インフルエンザは、インフルエンザウイルスによる急性の呼吸器感染症です。ウイルスには主にA型とB型が知られています。一般的にA型の方がB型よりも症状が強くです。

感染すると、発熱・頭痛・全身のだるさ・筋肉や関節の痛みなどがみられ、その後、鼻水・咳などの呼吸器症状が現れます。いわゆる普通のかぜと比べて、全身症状が強いことが特徴です。通常は1週間前後で良くなります。抗インフルエンザ薬を服用することで発熱期間を1～1.5日短くすることが報告されています。



例年のインフルエンザの流行は、12月からはじまり、1月末から2月上旬にかけてピークとなることが多いです。

ワクチンをいつ、何回接種しますか？

インフルエンザワクチンは、注射による不活化ワクチンと鼻の中に噴霧する経鼻生ワクチンがあります。

注射の
不活化
ワクチン
の場合

6か月以上～13歳未満

毎年シーズンに2回



13歳以上

毎年シーズンに1回または2回



経鼻の
生ワクチン
の場合

2歳以上～19歳未満

毎年シーズンに1回



インフルエンザワクチンの予防効果が期待できるのは、接種が終わってから2週後から5か月程度と考えられています。インフルエンザワクチンは、そのシーズンに流行が予測されるウイルスに合わせて作られています。このため、毎年接種を受けましょう。

日本では、例年12月～3月頃に流行し、1月～2月に流行のピークを迎えます。ワクチン接種による効果が出るまでに2週間程度必要なので、毎年流行のはじめる前の10月末や11月からワクチン接種をはじめるのが望ましいです。注射の不活化ワクチンは、13歳以上は1回接種ですが、6か月以上13歳未満のお子さんは2回接種します。経鼻の生ワクチンは、2歳以上19歳未満で1回接種します。

ワクチンの効果

インフルエンザワクチンの効果は、色々なことで影響されます。お子さんの年齢、今までにインフルエンザにかかったか、流行しているウイルスの型などです。ワクチンで使用されるインフルエンザウイルスの種類は毎年、専門家によって選ばれます。ワクチンと流行しているウイルスの特徴が同じであると、より高い効果が見込まれます。ワクチンの効果は、B型よりもA型の効果が高いことが知られています。お子さんにワクチンを接種することで、インフルエンザを発症しない予防効果があります。インフルエンザにかかって発症してしまっても、病院に入院しないですむなどの重症化や死亡を予防する効果があります。



ワクチンの副反応

インフルエンザワクチンの種類によって異なります。注射の不活化ワクチンの副反応では、接種した10～20%の方に接種した場所の赤み、はれ、痛みなどが起こります。全身性の反応としては、5～10%の方に発熱・頭痛・寒気・だるさなどがみられます。いずれも、通常は2～3日で軽快します。まれですが重い副反応として、アナフィラキシー（重いアレルギー反



応)、ギラン・バレー症候群などがみられることがあります。

経鼻の生ワクチンの副反応では、接種後に60%の方が鼻水や鼻づまりを経験します。のどの痛みや咳、頭痛などがみられることもあります。全身性の反応としては、1～10%の方で発熱・下痢・腹痛・疲労などがみられることがあります。い

ずれも、通常は2～3日で軽快します。まれですが重い副反応として、アナフィラキシー、呼吸困難がみられることもあります。

💧 どのように感染しますか？

主な感染経路は、咳・くしゃみ・会話などから発生する飛沫による感染です。その他、飛沫の付着物に触れた手や指を介して接触感染もおこります。潜伏期間は1～4日です。

小さなお子さんをインフルエンザウイルスの感染から守るためには、ワクチン接種に加えて、家族や周囲の大人たちが手洗いや咳エチケットを徹底すること、流行時期は人が多く集まる場所に行かないことも重要です。



接触感染

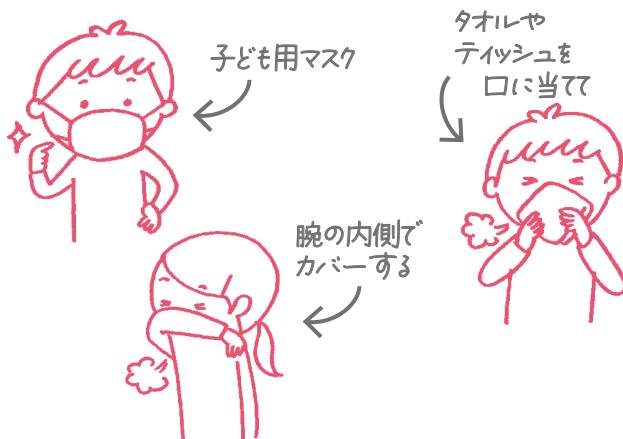
皮膚やおもちゃなどに付いた病原体に触れて吸い込むことで感染



飛沫感染

咳やくしゃみで飛び散った病原体を吸い込んで感染

◆ 咳エチケットしましょう！



♥ ワクチンが接種できない人は誰ですか？

① 注射の不活化インフルエンザワクチン



接種を受けることができない、いわゆる接種禁忌の人

- 明らかな発熱を認めた場合
- 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者
- ワクチンの成分によってアナフィラキシー（重いアレルギー反応）を起こしたことがある場合
- 上記以外で予防接種を行うことが不適当な場合



接種を受けるにあたって注意が必要な人

接種前にかかりつけ医によく相談しましょう

- 心臓・血管・腎臓・肝臓・血液に持病がある人、発育に障害がある人
- これまでの予防接種で接種後2日以内に発熱や全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を認めた人
- 過去にけいれんの既往がある人
- 過去に免疫不全の診断がなされている人
- 先天性免疫不全症の病気をもっている近親者がいる人
- 間質性肺炎・気管支喘息の呼吸器系の病気がある人
- ワクチンの成分または鶏卵・鶏肉・その他鶏由来のものに対してアレルギー反応を起こすおそれのある人

② 経鼻の生インフルエンザワクチン



接種を受けることができない、いわゆる接種禁忌の人

- 明らかな発熱を認めた場合
- 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者
- ワクチンの成分によってアナフィラキシー（重いアレルギー反応）を起こしたことがある場合
- 明らかに免疫機能に異常のある疾患がある、または免疫抑制をきたす治療を受けている者
- 妊娠していることが明らかな者
- 2歳未満の者（日本では、19歳以上の方も受けられません）
- 上記以外で予防接種を行うことが不適当な場合



接種を受けるにあたって注意が必要な人

接種前にかかりつけ医によく相談しましょう

- ゼラチンを含む製剤や食品でアナフィラキシーなどのアレルギーのある者
- 心臓・血管・腎臓・肝臓・血液に持病がある人、発育に障害がある人
- これまでの予防接種で接種後2日以内に発熱や全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を認めた人
- 過去にけいれんの既往がある人
- 過去に免疫不全の診断がなされている人
- 先天性免疫不全症の病気をもっている近親者がいる人
- 重度の喘息の人や喘鳴のある人
- ワクチンの成分または鶏卵・鶏肉・その他の鶏由来のものに対してアレルギー反応を起こすおそれのある人
- 妊娠出産年齢の女性（接種前の1か月、接種後の2か月は避妊する）、授乳中の女性

